

令和2年度9月卒業式・修了式 告辞

学長 千葉一裕

東京農工大学を卒業される皆さん、また本学大学院の課程を修了される皆さん、誠におめでとうございます。本学教職員を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

本日は、学士号取得者が農学部1名、工学部7名、修士号取得者が農学府修士課程13名、生物システム応用科学府博士前期課程1名、博士号取得者が工学府博士後期課程7名、生物システム応用科学府博士後期課程1名、生物システム応用科学府一貫制博士課程1名、連合農学研究科博士課程15名、論文博士4名、計50名が本学から巣立られることになりましたが、今日こうして皆さんの前に直接立って、卒業、修了をお祝いすることができますことを、私はひととき感慨深く思っております。それはもちろんいつもの年であれば当たり前とっていたことではありますが、皆さんもご承知のとおり、この度のコロナウイルスによって大きな混乱が世界中に広がり、大学の活動も当然のことながらその例外ではなくなりました。教室に集まったの講義ができなくなっただけでなく、卒業式・修了式や入学式など、学生の未来への飛躍を祝福して送り出すことや、新入生として本学に迎える大変重要な大学行事もいつもの形式では実施できなくなってしまったわけであります。少なくともこ

の半年間、ここに参列していただいている皆様をはじめ、全ての学生には大変な経験を強いることになり、また教職員もできる限りの対応に追われる毎日が続いているところです。そのような訳で、本日は皆さんのご協力をいただきながら、こうして一堂に会する中でお祝いの言葉を述べられることは、送る立場として本当にうれしさがこみ上げ、そしてその大切さをあらためて噛みしめているところです。

さて、こうして皆さんの晴れ姿を見ておりますと、私自身が学生として卒業式、修了式に参列した昔のことを思い出します。私は、修士課程在学中は私なりに研究に没頭し、今から思えば本当にかげがえのない日々を過ごすことができたと思います。また、自分の興味の赴くままに実験や勉強をすることの楽しさをそのとき始めて知ったように思います。そして今日のような修了式を境に、私は企業に就職をすることから社会人としての第一歩を踏み出したのですが、大学を離れ、企業に行くことはどのようなことが全くわからないながらも、何か胸躍るものがありました。その後働き始めて初めてわかったことは、何もかもが自分にとっては新しく、そして自分が経験してきた大学の中での環境も価値観も全く違うということでした。大学の研究室の中では一言で通じるような簡単な専門用語も通じませんし、毎日様々な人と出会い、考え方や目標もみな異なっていることを肌で感じながら、自分ではどのような存在なのだろうか、何ができるのだろうかと考えることも多い日々を過ごしました。そのような当惑するような経験の中で自分なりに頭をよぎったことは、学生のように真剣に取り組んだ自分自身の姿でした。新しい答えを求めて研究に没頭したのと同じよ

うに、何か困難にぶつかったときには、それを乗り越える方法があるはずだという信念をもてば、たとえ付き合う人や仕事の種類、ものごとの考え方は違ってても自分の役割はしっかり果たせるのではないかという気持ちになれました。正直に申し上げれば、そのときは絶対に突破できるなどという確かな根拠などはないのですが、とにかく前向きな気持ちで、勇気をもって挑戦する大きな礎となったことを記憶しています。

皆さんも今はこれまでの大学での学びが自分の中にどのような形で根付いているのか、よくわからない部分も多いかもしれません。しかし研究に限らず、この度の世界に広がった大きな問題も含め、自分自身が大学生活の中で体験した全てのことは、必ず近い将来、皆さん自身も気づかなかった新たな力となって、自分自身を勇気づけてくれるものだと思います。これからさらに進学してさらに学術研究に邁進する人、公的機関や企業などで活躍される人、自ら新たな仕事に挑戦される人、それぞれ道は異なりますが、これまで東京農工大学で過ごした日々の経験が、皆さんにとってかけがえのない大きな自信となって、未来をかがやくものへと広げられることを心から願っています。

本日、この晴れやかな門出を心から慶び、お祝いの言葉とさせていただきます。ご卒業、ご修了、誠におめでとうございます。